



令和6年 3月 31日

岩倉市議会

議長 関戸郁文 様

堀江 珠恵

天理市 視察報告書

このことについて、下記のとおり受講しましたので報告いたします。

記

- 1 実施日 令和6年11月18日（月）
- 2 研修先 天理市 子育て応援・相談センター「ほっとステーション」
- 3 復命事項
別紙のとおり

天理市子育て応援・相談センター ほっとステーション

行政視察報告

1. 設置に至った経緯は？（背景は？）

教員のストレスが原因で休職した人数は年間で 6500 人以上と報道がされ、天理市でも退職者 6 名・休職者 8 名であった。また、校長や教頭のなり手も不足も深刻になっており、確保するのに色々と大変だった。また、保護者からの対応に時間を取られることが多く、負担に感じている職員も多いのがアンケートをして分かった。保護者としては、子どものかかわり方が分からないなど色々と悩みを抱えており、その悩みから「大変なのに誰もわかってくれない」そんなちょっとした、教員と保護者とのすれ違いから、クレームという形になっていると分析をした。そのため、行政による学校問題解決のための支援体制の構築に向けたモデル事業を活用することになった。

2. どんな相談があるのか？教育相談と違いは？

あくまで対応窓口は原則学校のままだと崩さず、令和 6 年 10 月時点で相談件数は 156 家庭、335 件。現場訪問件数は 119 件。教育相談と違いはない。家庭からの相談をできるだけ整理し、先生と情報共有し、当事者はもちろんすべての児童生徒にとってより良い解決を模索していく。いじめ問題の案件やクラスが荒れている事例なども含まれる。

3. 教員と生徒児童・保護者との関係性の変化について

保護者からの要望していることに振り回されるのではなく、中長期的な視点から子どもの保護者の不安を和らげること、子ども主体に考えること、保護者の気持ちに寄り添いながら、子どもの安心を得ることが目的、児童生徒のトラブルの背景にある不安などを読み解くことが重要。保護者にいわれてすぐに対応していくのではなく、まずほっとステーションの専門的スタッフに相談しながら対応することで、教員の子どもへの対応に余裕が生まれた。

4. 教員の負担が軽減したのか？

始まったばかりでまだ、そこまでではないが、教員からは良かったという声が聞こえてきている。

5. 事業を行うにあたり予算はどれほどか？

市からは 100 万円の予算。国から 400 万円の予算、

子どもと教員、保護者の関係は複雑化しているからこそ、専門性のチームで問題を解決していく必要があると思った。

今いる、ソーシャルワーカーさんなどをそのまま、このチームスタッフになることで、人件費も抑えることができる。発達障害のお子さんへも対しても対応をしている。子どもたちが安心して、学校に通える環境づくりには必要な組織でもあり、一般質問などで提案していきたい。